

Karuizawa Meeting 2025



スクリーンの設置も、レンタルの10%の価格で購入(笑)。昇降式のバトンに横断幕の下に設置したため、しわが多くなってしまい画像が見にくかった…来年以降の課題。苦笑。

三次での10・20・30周年ミーティングのPA(音響)関係をやってくれ、毎年軽井沢でも前夜祭と日曜の音響をまかせているリンクスの西原くん(0708005)は今回、スターダストレビューのコンサート日程とかぶって、部下の中川くん(軽井沢は3回目くらい)が代打。電源、スピーカーライン設置など事前の準備。最後に各所をプレマシーで回って確認して、17時前に会場をデモホテルに向かいました。

●前夜祭パーティー

前夜祭パーティーの参加数はほぼ昨年並の258名。1テーブル7-8名で33テーブル。食事はひとりずつ提供のディナー型式。海外からの前夜祭参加はオーストラリア3、香港8、カナダの12名が参加。日曜にはオーストラリア6、カナダ1、香港8、フィリピン11、タイ13の39名が参加となりました。

開場前に委員で最終打ち合わせ後、ロビーで自分が座るテーブル番号(事前に事務局で決定)を確認して参加者の入場をお迎えします。

司会は9806018片桐美鈴さんと私水落、そして浜島くん。開会宣言後、実行委員紹介、高橋委員長の挨拶と乾杯。マ



ツダスタッフ出張参加者4名とプライベート自車参加者をステージで紹介。齋藤主査が代表して挨拶。山口宗さんともロードスターヘリテージマネージャーとして挨拶。貴島さんと山本さんをご紹介。香港のクラブ代表と、カナダから参加して日曜はボランティアもするPeterにも挨拶してもらいました。最初には駐車券争奪じゃんけん大会。今年も駐車券当選したのに仕事や都合、そしてよくある車の故

障で参加できなくなった方々からのキャンセル駐車券を、前夜祭に参加した駐車券がない人たち60名くらいで争奪じゃんけん勝負。獲得した10名の笑顔がよかったです。

他の宿泊施設から前夜祭に参加している人に挙手してもらおうと40%くらいが該当。愛車で来てないですよね?と同じテーブルの人たちにも強く飲酒運転禁止のお願いをさせてもらいました。来年は、より明確に規制することも検討中です。他の宿泊施設利用者の割合がもっと多くなると、残念ながらコロナ時以来の前夜祭中止も検討することになりそうです。

歓談時間に、Club Over40'sが、能登支援のチャリティシャツを翌日会場で販売することを告



知したいとのこと。熟年のメンバーたちがたくさんステージにあがってきたので、寸劇でもしてくれるかと期待しましたがそうでもなく(笑)。本人たちも参加者も酔っぱらう前の告知は効果があったようです。翌日、83枚上げた、と市川幹事さんから連絡ももらいました。よかったです。

メインイベントは、NC20周年をテーマにした貴島さんのトーク。当時一緒に開発した宗さんもサポート。2人とも当時の人馬一体プルゾンを着用。懐かしいです。当時のスタッフの集合写真に映った笑顔たちも印象的でした。4月の南九州

から始まったこのふたりのコンビトークは、しばらく各地で見られそうです(笑)。

そのあとは、NDの10周年にあたっての山本さんからショートトーク。昨年発売のND開発本についての話もありました。

最後はNDの元チーフデザイナー、おなじみの中山裕さん。翌日の会場で発表するので、それまでは守秘という約束を参加者にしてもらった上で、6/4で60歳になるのを機に6/10付でマツダを退職する、というサプライズ発表。スポーツカーのデザインの基本を久しぶりにホワイトボードで実際に描き、



参加者から「お疲れ様」と感謝の大きな拍手がありました。今号から始まった中山さんの連載(P16)の今後楽しみです。「ろくすくくん」の着ぐるみをRCOJが作ってくれるはず、という話が本人からありましたが、もし作ったら中山さんが着ることになることを本人が理解しているか、は未確認です。笑。

ラストのじゃんけん大会を仕切るのは、2年前からじゃんけんクイーンの田中杏奈ちゃん(6歳)とその父親(実行委員の田中大介さん)。今年も最初に杏奈ちゃんが英語でコーナ紹介して場内を湧かせ(笑)、マツダが提供してくれたマツダ100周年記念写真集5部と資生堂とコラボで作った「魂動」フレグランス5本の争奪じゃんけん。勝ち抜いた方々、おめでとございました。田中親子も、お疲れさまでした。

私の開会挨拶は、いつもの「NAサイコー、おーっ」から「明日も楽しもぞっ、おー」で締めて、21時ちょい後に無事終了。今年も充実の2時間でした。



●プリンスホテルウエストツイン、コテージ宿泊

プリンスでの前泊は、例年、主に非公開で事務局で団体料金での予約を受けています。ツインは45部屋、コテージは4人、6人、8人用合計30棟ほどを事前にプリンス堀口さんに確保してもらってます。コテージは相部屋を避けるため、スタッフ含め1棟貸して予約を受付ます。それぞれ4/25頃に前年宿泊実績がある方々にメール連絡。事前に直接事務局に要望があったメンバー分(来年、宿泊希望のメンバーは事務局に連絡ください)も確保したあと、残りはOPEN INC SHOPサイトでも公開受付。毎年、ツインもコテージもほぼ埋まります。今年は合計233名の宿泊者それぞれが、翌日を楽しみに眠りにつきました。

5月25日(日) 朝だけ雨。その後は14年連続の晴れ

●朝いちのRCOJテントあれこれ

朝6時、小雨がそぼ降る会場に到着すると、いつもどおりボランティア数名が到着済み。トランシーバのイヤフォンを着けつつ、前日にイメージづくりし

たRCOJテント内の商品並べ。目玉は通販で大変だったオリジナルTシャツ(笑。事務局日記参照)。昨年好評だった「もみじ饅頭」は、長期予約がよくなかったで断念(苦笑)。商品のなかで唯一賞味期限があるRCOJオリジナルロードスタークッキー72セットは曇過ぎにば売れました。たくさんのリピーターにも感謝。

MAZDAの展示車は2リッター2台がキャリアカーで到着。ステージテントの内外に設置。マツダ用テントには、この日発売のコラボドライビングスーツカーの展示試着コーナー。その他昨年のアンケートへのお礼やバッグやプルゾンなども展示。マツダコレクションの通販サイトの紹介も。

●ボランティア集合、ショップ入場、一般入場

7時からもうじき雨が降りそうな空の下、総勢131名(昨年から10名減)のボランティアミーティング。初ボランティアが6名くらい。マツダからは齋藤主査、山口宗さん、岩内さん、談山さん、松岡さんの合計5名もボランティアに参加。ピブスや誘導棒も配布。朝食は、おにぎり2個(今年も実行委員の加藤くんが佐久の西友で6時に240個購入して搬入)とペットボトルのお茶が支給されます。高橋委員長の高橋の挨拶、担当委員古くくが作った分組表でそれぞれの担当場所を確認し、それぞれのリーダーのもとで段取りや基本業務を打合せ。

7時30分までに、全部で22店舗のショップさんが第2ゲートから入場。ショップの入場対応(チケット、車両証確認)は今年も松島夫妻。場内では私がショップ対応。1台遅刻が発生した以外、ほぼ問題なくショップ入場完了。その後松島くんは岡田くんと一緒に軽井沢駅の参加者誘導担当のため駅へ。若葉さんはRCOJテントのヘルプ(後出)に來てもらいました。

RCOJテント内の商品準備中にトランシーバーから砂読みが聞こえ始め、8時、第1駐車場のゲートオープン。3ヶ月間の苦勞が走馬灯のように…笑。



公道の渋滞緩和のため、第2駐車場は8:20から入場開始にしますが、駐車場前の道路は、第2の開場待ちのローリング車両なども混雑して今年もプリンス通りまで渋滞が伸び、久々の110番通報が入りました。来年は新たな対策として第2駐車場の開場時間を20分遅らせて、8:40にします。受付テントでは、今年も駐車券無と人のチケットのチェック。駐車券、チケット忘れた件発生(どちらも心を鬼にして入場不可です)。受付テントと本部テントでクレデンシャルケースは1個100円以上のチャリティで約1300個を販売しました。

8時過ぎに9806018片桐美鈴さんと博也さんがRCOJテントに到着。松島若葉さん、事務局Yokoと共に店内の最終調整。岸田さんも到着。片桐博也さんは、RCOJの旗の前でおなじみのメンバー記念撮影担当。今年は一層、積極的な声かけをして、たくさんの笑顔を残してくれました。



●開会式

10時、実行委員の浜島くんの司会でスタート。高橋委員長から開会挨拶。参加者からのたくさんの拍手が、今年も開催できたなあ、としみじみさせてくれます。出張とプライベート(自走参加)おりませ、マツダスタッフの紹介。齋藤主査が代表挨拶。貴



島さんと山本さんも紹介しました。そして、ステージテント内の12Rに座れる権利争奪じゃんけん大会。12名が整理券を獲得。

●ショップオープン

開会式終了後、場内2箇所のショッピングストリートがオープン。入場規制のロープをオープン待ちしていた参加者がパイロンから落ちてくれます。皆がスタッフ。笑。

RCOJテントは、昨年同様入場行列を減らして参加者に時間を有効活用してもらえる入店時間指定整理券の配布によるファストパス方式。松島若葉さんが今年も入口担当。行列最後尾の方に「ここが最後尾」看板を持ってもらったり。行列ができたら整理券を配りつつ、整理券なしの行列は20人程に制限し、整理券保有者を優先しつつ店内人数10人前後をキープして入店してもらう方式。今年も、若葉さんのおかげでうまくいきました。ほんとにありがとう。片桐美鈴さんと事務局Yokoのレジ2



Karuizawa Meeting 2025



箇所体制に、ときどき私も加わってお客さんとの会話も笑顔で楽しめました。RCOJテントだけが、毎年行列ができる理由は、他のショップさんの商品ラインナップがハード(車の部品)寄りが多いことにに対して、RCOJにはニカーやグッズ、Bowさんの絵のTシャツやバッグ、ロードスターロゴ入りの帽子やキーホルダー、などのソフト商品が多いからです。一律2,500円SALEのTシャツ、一律1,500円SALEのバッグ類がほぼ完売しました。帽子もほぼ完売。グッズ類もたくさんお買い上げありがとうございました。事前に4箱送った大型段ボールの中身はほとんどなくなり、帰りのプレマシーの荷室には空きスペースができてました。山本さんが朝いちからSA



インしてくれたND開発本20冊も完売。テント裏でサイン会も。笑。

RCOJテントの行列がなくなった頃には冷やかしの人々もたくさん来訪。テントまでたくさん笑いながら話ができました。初めてミニカーになるM2車の試作塗装サンプルの発売予告展示に、たさんのM2オーナー、ファン、ミニカー好きが食いついてました。今秋発売です(Parts & Goodsのページ参照)。

RCOJ隣のケバ屋さんのキッチンカーでは、ソフトクリームがかなり売れたもよう。アウトレット内に常時出店しているケバ屋さんのキッチンカーに、ミーティング参加者の来訪が続いているように、私も軽井沢に行くときはより立ち寄ります。

●ベダルカーレース
ショップオープン頃の、ステージテント前のスペースでは軽井沢の象徴、ベダルカーレース開催。このレースは3歳から5歳までしか参加できません。今年は急に参加者が減って7名(昨年14名)。ここにも少子化の波? 苦笑。あいかわらず熱い保護者もいて、楽しめます。NDの電動ベダルカーが売られていますが、やっぱり足でこぐこのモデルが好評。再販希望の声がたくさん届き続けます。残念ながら安



全玩具の規準が厳しくなって、もう大きなメーカーでは出せないようです。事務局で少量作ったらきつと高価になります。手持ちの4台を大事にしています。これもマツダでレストアしてもらえと嬉しいですが。



●初心者ツアーニスターアース

MAZDAテント横のお客さん用テント前で、一昨年から始まって既人気アトラクション化している初心者ツアー「スターアース」を今年も開催。プログラムには「軽井沢初参加、初心者、ミーティング初心者の方々のために」「開会式終了後、場内(ショップ、駐車場など)を30分程度のツアー形式で回り、楽しみ方を伝える初心者ツアー」です。初参加者どうし集まると、そこにも知り合いの輪ができるというツアーでもあります。事前申込は不要です。人数が多過ぎた場合はグループ、時間に分けます。」と記載してました。昨年の人気をふまへ、整理券を昨年より30枚増して168枚用意。けれど配布開始10分でもなくなったとのこと。30人が参加できず。担当の高木くん、田中くん、五味さんに、今年は森田くんも加わって、3人で2回ずつ計6組(28名/組)で開催。五味さんが準備したミニスピーカー+マイクも参加者に声が聞こえて好評だったよう。それぞれ違うコースを回ったりして、ショップや他の参加者の話を聞いたり、臨機応変だったよう。お疲れでした。同じ組になった人どうしのより積極的な交流を促す策など、これからまたいろいろ熟成していきますように。来年も楽しみです。

●トーク第1部

11時からトーク第一部は、まずNC20周年で、貴島さんと山口宗さんのお話。次にND10周年で



山本さんからひとこと、午前のラストは、伏見くんからNAGレストアの現状報告と価格改定の話。初期450万円だったフルコースの料金が836万円! になりました。それでも予約は入っているそう。それだけ価値があるというですね。

●ランチ&集合写真&神主さん

お弁当は、今年も群馬の「登利平」さんの3種類。事前に全品50円程度値上げの連絡は受けていましたが、釜飯はもっと高いし、他に1日で2,600個用意できるお弁当屋さんがあるわけもなく承諾

(苦笑)。トータルで15万円くらいコストアップしました。で、今年は弁当引き換えの大行列の最後尾がゲートの近くまで伸びてしまいました。スキー場の弁当配布担当者が変わって、行列方向を指示できなかったこと、弁当の到着が遅れたことも原因だったよう。トイレへの動線をふさいでしまったり、混乱がありました。来年は本来の列方向になるかと。並ばなくても数はあるので大丈夫です。

集合写真撮影は今年も脚立から、14年連続晴れの功労者水澤さん(熊野皇大神社の神主さん)も立ち寄ってくれ、ドヤ顔(笑)ののち、お疲れもして



くれました。皆から感謝を伝えられ「ほんとロードスターさんが一年で一番が痛い(苦笑)」とのこと。もうなんとかが雨が降る気がしなくなってきたので、来年もよろしくお願ひします。笑。

●トーク第2部

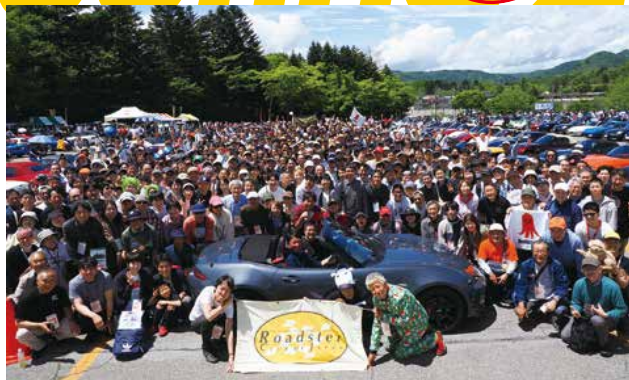
午後のトークは、まず「35周年の感謝」齋藤主査(2309007)で、岩内チーフデザイナー、広報・田中秀朗、デザイン本部から諺山さん。そして中山さん(1312001)も交え、35周年車、2リッター、NEの話など、参加者が聞きたい話がたくさん。司会の浜



島くんからの質問や、参加者からの質問(事前に質問箱に投入)に笑いを交えながら回答していたよう。最後に、中山さんが前夜祭同様に、ホワイトボードにスポーツカーの基本概念スライディングを描き。そしてマツダ退職を発表しました。高橋実行委員長から、感謝状も授与。ステージ前に集まって聞いていた参加者から「お疲れ様、ありがとう」の大きな拍手が湧きました。実行委員会では、来年以降、中山さんをも活用するか? (失礼。笑)を検討中です。マツダ社員に厳しく切込みでも司会進行をやってもらうかも(笑)。乞うご期待。



●抽選、チャリティオークション～開会
ショップさんから提供いただいたハード系商品の



オークションと、抽選会も実施。抽選は前年までのアンケート用紙を引く形から、全参加者の名前カードから引く形に変更したため、当選者が不在のことも多くちょっと時間がかかりました。当選し呼ばれたときに名札をつけていないと賞品を渡せない、というルールは不変です。最後は、高橋委員長のあいさつ。恒例の「家に帰るまでがミーティングです」で、無事終了したことを実感。浜島くん、今年も13ページに渡るA4台本(情報メモ)の事前制作など周到な準備かつ臨機応変な司会進行、お疲れでした。

開会後の参加者の見送りとかたづけはいつもどおり着々。公道側の欄に、出口はこちらへの看板を貼り忘れていて、最初は混乱してしまいました。反省。見送りがつと段落したところで、いつもの委員とスタッフで記念撮影。今年も、お疲れさまでした。

▲途中退出について

第1、第2の途中退出原則禁止措置は、みなさんの協力のおかげでうまくいきました(第1で1件だけで事情の途中退出)。出口まで誘導するスタッフの時間や、安全リスクがなくなって成功でした。来年も応募業者に途中退出希望を記載してもらって抽選する形で、継続します。

●反省会

6月には実行委員会の反省会と2026第一回会議をプリンスホテルで開催しました。今年挙げたひとつの議題は、マナーについての念押しが必要というところ(下記参照)。また、駐車場オープン時の渋滞対策として第2駐車場の開場時間を20分遅

くすることにしました。そして、お弁当の行列の解消(笑)。実行委員会の軽井沢ミーティングの会場はここです。年に1回、たくさん笑顔にこの場所で見え、そのために改善、努力をこれからも続けていきます。とは言っても、ミーティングは、参加者とボランティアスタッフの皆さんの協力があって初めて成り立ちます。お互いに感謝の気持ちを持ち続けたいです。公式サイトFAQにのせむけ目を通し、改善点、提案がありましたら、事務局まで連絡を。軽井沢ミーティングは、今までもこれからも参加者みんなで、創り続けていきます。

翌日、熊野皇大神社に晴天のお礼参り。「星乃道神社」の寄道先の板には中山夫妻の名前が加わっていました。(P5の写真参照)

●軽井沢ミーティング2026～笑顔、逢える。～

来年2026年は5月30-31日の開催です。プリンスホテル、スキー場駐車場も予約済みです。駐車券も、今年同様、2026年2月中旬から4月初旬の間、往復はがきでの応募、抽選になると思います。詳細は2026年2月発行のvol.119でお伝えしていきます。2026年になると、もう40周年まで3年です。あとという間に大きな節目が目まぐるしく近づいてきます。毎年の軽井沢や各地にでかけながら、一層楽し充実のライフプランを考えましょう。40周年を笑顔で迎えるために。

●2025年の最終参加数
事前申込不明だったメディア21名を加え、参加者総数は史上1位2,634名(過去の最多記録は2024年の2,617名)。平均年齢61.5歳。参加申し込み時の代表者の年齢で算出。代表者年齢構成: 13-29:1.2%, 30-39:1.0%, 40-49:1.2%, 50-59:40.4%, 60-69:23%, 70以上:33%。実年齢は国内で確認できたロードスター(ボランティアスタッフの手元)は1,105台(昨年は1,089台)。内訳は、NA22%(昨年24%)NB10%(9%)NC10%(9%)そしてND+RF58%(58%)です。年々劇的にND+RFの比率が増えていきました。今年は昨年と同じで落ち着き感。この比率はこれからあまり変わらず続いている気がします。

●マツダ関係 出張参加者(一部プライベート自動車参加もあり) Vは専任のボランティアスタッフ。前夜祭と日曜参加出張者のV商品本部主査・斎藤樹(さいとうしげき) / V商品本部プロジェクトマネージャー・山口宗則(やまぐちむねのり) / Vデザイン本部チーフデザイナー・岩内義人(いとうちよしと) / Vデザイン本部ブランドスタイル統括部・諺山慎一(しんやましんいち) / デザイン本部主幹・中山雅(なかつまやま) / Vデザイン本部カラー&トリムデザインGr・松岡信宏(まつおかのぶひろ) OB・山本修弘夫(やまもとしゅうく) 日曜参加出張7名+社外2名・国内営業本部国内商品マーケティング部・辻本宏治(つじもとこうじ) / BX本 プラント体験推進部・中村一樹(なかつむかずし) / BX本 プラント体験推進部・廣嶋淳子(ひろしましゅんこ) / リーजन商品推進部・伏見良(ふしみあきら) / デザイン本部ブランドスタイル統括部・寺島裕紀(てらしまゆうき) / (スピングル2名、グッズ展示担当) / 国内営業本部国内商品マーケティング部メディア対応・田中秀朗(たなかひであき) / 国内営業本部国内商品マーケティング部メディア対応・保俵泰史(たへようやすみ) / 他にも、マツダプライベート自動車多数あり。

●2024参加者アンケート

回答総数669件(回答率26%) 結果を一部紹介(最多は2022年の1,694枚80%)
○初参加の割合34%(過去最多は2023年の42.4%)
○仲間参加の割合が約1割、ひとりで参加1572人参加116、特に家族参加319の増加傾向継続中。
○感想、意見(フリーアンサー)
人見知りでも前夜祭では初めての方と交流がしやすく、ミーティング全体を通してフレンドリーな雰囲気毎毎楽しみにさせてもらっています。／ひとえにスタッフの皆さまの事前事後の苦労のおかげです。ありがとうございました。実行委員の方々、いつもありがとうございます。ロードスター所有歴25年の夫はロードスターのおかげで元気になってしまいました。ミーティングも楽しんでいます。今後も宜しくお願いいたします。ミーティング会場の外にたくさんの笑顔が溢れていました。開催場所へ行く道中から多くの参加者が手を振っているのは感動です。初心者ツアーでは、良い体験が出来て良かったです。／トクグロは、情報盛りだくさんで相変らず楽しかったです。娘が産まれたので、ロードスターに乗るまで継続したいです。／子供の頃父兄の助手席で参加し始めてからマナーについて運転手として参加し、この度感謝状と奥さんを送っての参加となりました。長く続いてるミーティングだからこそうして思い出と共に残っています。今後も未来を一緒に楽しみたいと思います。子供が生まれた今後は私の助手席に乗せて参加したいです。笑。／スタッフさんいつもありがとうございます。彼の隣に笑っての参加です。ミーティングも彼もいつもで楽しくいっています。／夫婦で楽しめるとは共有できず。今年一度、この日のために生きていこうとまで過言言いません。／軽井沢MTG久しぶりの参加ですが、ささく古くからの友人と逢えました。／規模も大きい、スタッフの方の丁寧さだけでなく参加している皆が作り上げていることを実感。

●マナー再々々々

今年は、数年前に、プリンス通りの渋滞について110番通報がありました。と軽井沢警察署から8:15頃に電話がありました。事前に連絡、検挙には行っていないため、連絡がでた。警察署からは、歩道から車道にはみ出して手を振っている人はNG、という指摘もありました。また、参加者からプリンス通りの路肩でステッカーを配っている人といった指摘もありました。開場前のローリングのために、各所でターンもたくさん発生していて、バスのドライバーさんからも危険だと苦情がありました。●他車も走行している公道で、ロードスターが、手を振り合うために急減速することや、ハイタッチするため、ものを受け取るために公道上で停車すること、複数台でターンすることなどが、他車への迷惑と危険を生んでいると理解していただき、参加者みんなが、軽井沢ミーティングの継続に願っていると思います。実行委員会が30年以上積み重ねてきた実行経緯は、すべてその継続のためです。これは軽井沢に限ったことではありません。まわりにも迷惑、危険と感ぜさせることが起れば、ミーティングの継続が危うくなります。また、ミーティングだけでなく、このクルマと仲間、そしてロードスターというブランドのイメージを下げてしまいます。これを横に、また皆で考え続けたいと思います。



Karuizawa Meeting 2025



<軽井沢はスタッフも楽しめます。>



軽井沢ミーティングは、単一車種で毎年実施するイベントとしては世界最大規模。でも、主催はマツダでもなく、大きな会社でもありません。関東圏のクラブ他有志(2025年は18名)による「軽井沢ミーティング実行委員会」の主催です。毎年お伝えしていますが、RCOJの主催ではありません。委員会から、問い合わせや参加申込のフルタイムの窓口運営業務を、RCOJ事務局が受託しています。

委員会では軽井沢ミーティングの規模を大きくすることを目指してきただけではありません。開催についての告知は、本誌と公式サイト以外ではほとんどしていません。当日のボランティアも含め、参加者といっしょに自分たちも楽しむ場を作り続けること、その目的のために重ねてきた改善が、結果として参加者の増加につながって来たと思っています。もちろん、ロードスターを継続生産してきたマツダのおかげでもあります。ユーザーとの交流で得たものが次のモデルに活かされてきたこともその要因です。

実行委員は、各々が担当業務のリーダーとなり、当日はそれぞれの委員の仲間や一般参加者のボランティアスタッフの協力を得て軽井沢ミーティングが運営されているのです。

これも何度もお伝えしてきましたが、軽井沢ミーティングでは、実行委員も含めすべてのスタッフが一般参加者と同じ参加費を払ってます。もちろん委員やスタッフに人件費が払われることは一切ありません。日曜早期の駐車誘導ボランティアには駐車枠が確保され、朝食としておにぎり2個とお茶と、ボランティア缶バッジが配られます。仕事で来ているわけではないからこそ、委員もスタッフも一般参加者と同じように楽しめるのです。一般参加者より早起きでちょっとだけ眠いスタッフの元気の源&報酬は、参加者からの「楽しかったです。」「お疲れさまです。」「というひとと笑顔、そしてミーティングを一緒に創っているという自負です。

2025実行委員会18名 (50音順)内は(主担当)
9605133大川恵一(1P川側場内誘導駐車)、0510010大古哲生(1P場内誘導駐車統括、ボランティア監督)、0005027岡田直紀(軽井沢駅誘導、ペダルカー)、9706004加藤誠(2P入口誘導、本部業務)、1607007五味俊夫(3P-2P歩行者誘導、スターツアーズ)、9704012新藤日出雄(本部業務)、9606031杉本敏治(3P入口路上)、1004010高木亮佑(1P入口路上プリンス通り側、スターツアーズ)、9605117高橋優一(会場レアウト全般、第1ゲート受付)、9801001田中大介(スターツアーズ)、9703018富田佳光(3P全体)、1204002奈良輪康弘(1P山側場内誘導駐車)、1903009野口正貴(第1ゲート受付)、9605008浜島秀和(司会)、1507013松島輝秋(SHOP対応、軽井沢駅誘導)、松島若葉(SHOP対応)、事務局・水落正典(事務局、進行全体)、9605054吉田雅彦(司会サブ、本部)

2025運営協力スタッフ (敬称略順不同)
同じ参加費を払って、実行委員のもっとも業務分担しつつ、全員が他の業務にも協力します。彼らボラ

ンティアスタッフにも支えられて、軽井沢ミーティングが成り立っています。皆、ロードスターを愛する仲間です。ちょっと早起きして来てくれる当日朝の駐車場誘導スタッフは黄色のビブス(メッシュのベスト)を着用しています。「おつかれさまです」のひと声で、みんなしあわせになれます。2011年から新たに「ボランティア缶バッジ」を製作配布しています。これは、ボランティアの皆さんへの感謝の気持ちと、本人が誇りに思えるような参加証として作っています。ボランティアとして参加するたびに勳章のように胸や帽子に増えて行くよう、毎年デザインを変えて製作しています。

●日曜の駐車誘導ボランティアはここ数年、経験者とその紹介者のみで運営しています。早起きの分、第一駐車場に専用スペースが用意されます。**RCOJメンバーで新たにボランティア参加希望の方は、2026年1月末までに事務局まで連絡ください。**ただし、人数過多の場合はボランティア参加い

ただけないこともありますのでご了解を。前夜祭:
片桐美鈴●前夜祭&日曜撮影:片桐博也、片桐久文●前夜祭&日曜音響:中川大輔●本部対応:小林潤一、中村守康、丸島健右●日曜受付:池田勤、伊沢良二、大川靖宏、岡崎和裕、小澤かずこ、格由紀子、古山英洋、鈴木和則、鈴木広信、高橋拓馬、高橋亮馬、永山勉、永山直人、平野正幸、武藤義人、村井尚大、横沢慎一●駐車誘導:浅香智、天沼重明、飯島利彦、金井広行、金井佐代子、川端博高、北爪紘平、正田哲雄、瀬下亨一、高田光隆、高田悠平、高野晋一、田口武、田谷野寛之、中曽根清、中曽根英雄、中村伸司、水村哲、井上隼人、金沢芳典、金田拓也、窪田孝夫、小杉和明、坂本聡、坂本久美子、杉崎誠、松永晃一、山崎浩之、青谷修二、秋元秀行、諫山慎一、一宮亮、岩内義人、岩田靖史、上田良平、牛山天晴、牛山美咲、海老原健太郎、太田寿一郎、岡田千枝子、菊地太郎、菊地文子、工藤耕一、工藤秀俊、小林耕史、斎藤茂樹、齋藤誠、茂田直大、平石将太、鈴木由美、鈴木清実、瀬端宏之、棚橋誠、棚橋美紀、對馬健一、手塚正臣、豊田優、西川佳男、長谷川浪次郎、楢皮聖子、藤井和人、松岡信宏、関宮智将、水落美

紀、水町夢菜、村上晋、村上智美、村上友哉、森田匡俊、山内瑞子、山口宗則、吉野伸好、Peter Royea、江連優、大竹和哉、岡寛、小高芳彦、白根明浩、大矢梢、白根宏希、関塚秀夫、田辺裕之、野口洋、馬場雅之、二本宏、安野亨、吉田光博、山本正人、望月真由美、横悠未、その他、当日手伝ってくれたボランティアスタッフの方々、他の参加者の楽しみのために動くことも楽しんでくれました。おつかれさまでした&ありがとうございました。

<実行委員会からの今年の寄付合計572,343円>
今年の寄付内訳は下記です。参加者の皆さんが楽しみながらできる活動として、今後も、毎年寄付を継続します。

<能登地震義援金募金箱>
令和6年能登半島地震災害義援金の募金箱を、今年も受付テントと本部テントに設置しました。オリジナルフレンドシャルケースの売り上げも募金箱へ入れてもらい、また出店ショップさんから協賛いただいた力により一部商品のオークション売り上げとの合計募金箱188,067円+オークション84,000円=272,067円を義援金に寄付しました。

<軽井沢ミーティング実行委員会からの寄付>JCV「世界のこどもにワクチン」日本委員会への募金
こどもたちの未来の夢をかなえる活動の一助になれば、と、2008年から寄付を継続しています。寄付金額は、2022年まで、その年の参加人数に、MMR<はしか、おたふくかぜ、三日はしかのワクチン3点セット>の金額114円を乗じて決定してきましたが、経費高騰により、2023年にはMMRワクチン価格もほぼ倍額の225円となっています。その金額を参加人数分寄付するのは難しいため、2023年度以降も、参加者1人あたり114円の寄付を継続することとしました。**参加者2人でもこども1人分のMMRを寄付する形になります。**今年2025年の参加人数は2,634名でしたので、2,634名

×114円＝
300,276円
を送金しました。ちなみに2008年から今年までのJCVへの寄付総額は約400万円です。3万人以上のごもたらにワクチンをプレゼントできたこととなります。

